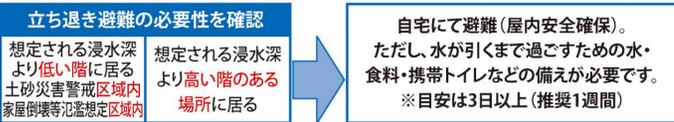
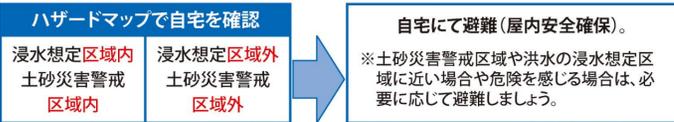


避難について

避難方針

ハザードマップで自宅等の浸水深を確認し、場所に応じた避難をしてください。



高齢者や避難に時間が掛かる方は、警戒レベル3「高齢者等避難」が発令された時それ以外の方は警戒レベル4「避難指示」が発令された時に、内水ハザードマップに記載の「指定緊急避難場所」へ避難してください。
※親戚や知人宅への避難も検討しましょう。

立ち退き避難(水平避難)と屋内安全確保(垂直避難)

災害では早めの避難が重要です。すでに避難経路が浸水しているなど、危険が身近に迫っている状況では無理な避難行動はできるだけ避け、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所へ移動するという判断も必要です。
安全が確保されるのであれば、自宅内でも避難ができます。土砂災害の危険性がある場合は、屋内でもかけと反対側に移動することも避難です。



土砂災害の危険がある場合、かけと反対側の2階以上へ避難します。何よりも命を守る行動を!!

自宅内や近隣建物に安全な場所がある場合は、無理に立ち退き避難せずに自宅等に避難することも検討してください。

避難時に出される情報

避難情報と警戒レベル

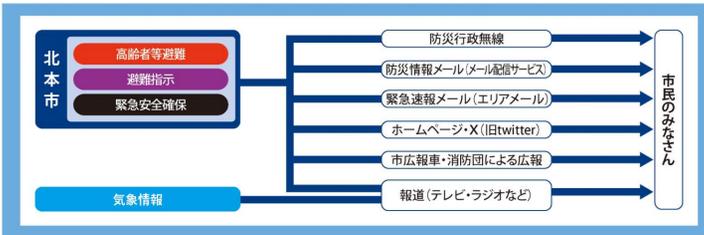
風水害時には、警戒レベル等や周辺の状況を勘案して、北本市からレベルに応じた避難情報を発令します。

警戒レベル	種類	住民に求める行動内容
警戒レベル3	高齢者等避難	避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人は、危険な場所から避難しましょう。また、高齢者以外の人でも、必要に応じて、普段の行動を見合わせたり、避難の準備をして、危険を感じたら自主的に避難を開始するタイミングです。 危険な場所から全員避難しましょう。
警戒レベル4	避難指示	直ちに身の安全を確保しましょう。 すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。「緊急安全確保」の発令を待ってはいけません。
警戒レベル5	緊急安全確保	

避難情報が出ていない場合でも、身の危険を感じたら、すぐに避難しましょう。

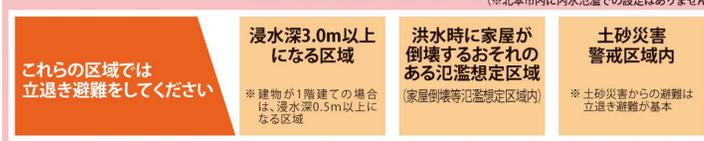
情報伝達の流れ

北本市等から市民のみなさんへ、以下の方法で防災情報を発信します。



早期立ち退き避難

早期立ち退き避難が必要な区域 (※北本市内に内水氾濫での設定はありません)



避難のタイミング

タイムライン

災害が発生するおそれが高まった時に、気象庁や北本市から5段階の警戒レベルが発表されます。警戒レベルに応じて、安全な避難行動をしてください。

警戒レベル	気象情報	気象庁等の情報	北本市の行動	市民のみなさんがとるべき行動
1	大雨の数日～約1日前	早期注意情報(警報発の可能性)		災害への心構えを高める
2	大雨の半日～数時間前	大雨注意報 洪水注意報		ハザードマップ等で避難行動を確認
3	大雨の数時間～2時間程度前	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報	氾濫注意情報 大雨警報 洪水警報	高齢者等避難 →気象情報等の警戒レベルにより、自動的に発令するものではありません。 立ち退き避難の必要がある方は、避難準備が整い次第、避難開始。高齢者等は速やかに避難。 お年寄りや身体の不自由な方は、避難を開始しましょう。 その他の方は、避難の準備をしましょう。 正確な情報を入手しましょう。
4		土砂災害警戒情報	氾濫危険情報	避難指示 注意してください! 避難してください!
5	数十年に一度の大雨	大雨特別警報	氾濫発生情報	緊急安全確保 すでに災害が発生している状況 また避難していない人は、直ちに指定緊急避難場所や近くの安全な場所へ避難しましょう。 自宅等から外出することによって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内より安全な場所へ避難をしましょう。 危険な区域からまだ避難できない方は、命を守るための最善の行動をとる。 ・大雨特別警報発令時には、災害が起きないと思われているような場所でも危険度が高まる異常事態であることをご留意ください。

情報の入手

緊急時の情報入手先

インターネットなどからも情報を入手できます。自ら情報を入手しましょう。

インターネット

- 北本市役所: <https://www.city.kitamoto.jp/>
- 気象庁: <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- 北本市X(旧Twitter)@kitamotocity: <https://x.com/kitamotocity>
- 東京管区気象台: <https://www.jma-net.go.jp/tokyo/>
- 埼玉県防災ポータルサイト: <https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/anzen/>
- 気象庁 あなたの街の防災情報: <https://www.jma.go.jp/bosai/>
- 国土交通省 川の防災情報: <https://www.river.go.jp/portal/#83>
- 気象庁 キキクル: <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>

北本メール

北本市では、防災情報等を電子メールでお知らせするサービスを行っています。配信を希望される方はご登録ください。右のQRコードからも登録できます。

北本市防災行政無線 電話応答サービス

北本市では、防災行政無線で放送した内容を確認できる電話応答サービスを行っています。防災行政無線が聞こえなかった場合にご利用ください。
☎ 048-590-5791 (通話料が掛かります)

災害時の情報

雨の強さや降り方と災害の危険性

下の表は、雨の強さと降り方の目安、それに伴う災害の危険性を示したものです。普段から雨の様子に注意し、警報や避難指示が出る前でも、危険と判断すれば自主的に避難することが大切です。

	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量と予報用語	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm~
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	瀧のように降る(ゴーゴーと降り続く)	思わしくなるような圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響と屋外の様子	地面からの跳ね返りや足元がぬれる	傘をささなくてもぬれる。車のワイパーを速くしても見づらい	道路が川のようになる	傘は全く役に立たなくなる。水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
災害の危険性	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要	側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある	山崩れ・けがれが起きやすくなり、危険な場所では避難の準備が必要	土砂災害が起これば、多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれがある。被害が甚重な場合がある

※表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きい被害が発生する場合もあれば、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板

災害用伝言ダイヤル「171」

NTTドコモ: <http://dengon.docomo.ne.jp/>

KDDI:au: <http://dengon.ezweb.ne.jp/>

ソフトバンク: <http://dengon.softbank.ne.jp/>

利用方法: 171にダイヤルガイダンスが流れる → 録音の場合1 → 再生の場合2

市外局番から電話番号を入力被災地の方は自宅の電話番号を被災地以外の方は被災地の方の電話番号を(☎☎☎)☎☎-☎☎☎☎

災害用Web伝言板

スマートフォン、パソコン等から、災害用Web伝言板(Web171)にアクセスすることで、テキストによる伝言(安否情報)の登録・確認を行うことができます。
<https://www.web171.jp/>

※各携帯電話会社でも、それぞれ、災害時に災害用伝言板のサービスを提供しています。

避難の心得

避難の心得

避難時にあわてないため、日ごろから避難の心得を覚えておき、必要なものを準備しておきましょう。また、みんなで避難の手順について話し合っておきましょう。災害時には、正確な情報を受けて、すばやく避難しましょう。

- 状況により、すばやく避難: 避難情報などが発令されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。
- 家族には連絡メモを残そう: 外出中の家族には「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておきましょう。
- わが家の防災メモを持とう: 住所・氏名・連絡先などを記載した防災メモを用意し、身につけて避難しましょう。
- 集団で助け合おう: 単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
- 車での避難は控えて: 車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。
- 安全なルートで避難: 川べり、がけ沿いなどは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。
- 非常持ち出し品は最小限に: 非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。
- 指定緊急避難場所では指示に従いましょう: 指定緊急避難場所に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。

大雨時に危険な場所

指定緊急避難場所や指定避難所までの路上には、いろいろな危険が潜んでいます。日頃から身の回りの様子を観察し、大雨のときに注意すべき場所を確認し、ハザードマップに書き込んでおきましょう。

- 地下道(アンダーパス): 地下道(アンダーパス)は、大雨時には周辺から水が流れ込み危険です。
- 土砂災害警戒区域等(がけ崩れの危険がある区域): 「がけ(急傾斜地)」は、大雨が降ると崩れるおそれがあります。大雨時には近づかないようにしましょう。また、「がけ」の近くに住宅がある場合には、早めの避難を心がけましょう。
- 水路の周辺: 水路には、ガードレール等の柵がないことがあります。浸水時には、水路の場所が分からなくなり、誤って落下し、流される危険があります。
- 浸水実績箇所: 周辺よりも低くなっていることが多く、水が溜まりやすいため、注意が必要です。

大雨時の地下は注意が必要

洪水や豪雨時の地下施設、地下室などは危険です。地上の浸水状況とは大きく異なり、冠水や停電の危険性が高いため、特に早めの避難が必要です。

- 地上が浸水すると一気に水が湧きこみます
- 浸水すると電気が消えることがあります
- 地下駐車庫、半地下住宅では、排水ポンプを設置し、浸水に備えましょう
- 水圧でドアが開かなくなることがあります

日ごろの準備

自宅まわりの風水害対策

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行いましょう。

家庭でできる簡易水防

簡易水のうの作り方: ゴミ袋に水を入れる。床下が浸水すると、床下収納のふたが開いて、水が入ることがあります。重しを置いて、水の浸入を防ぎましょう。

簡易水防1 プランター+ビニールシート

簡易水防2 簡易水のう+止水板

非常持ち出し品

非常持ち出し品・備蓄品

非常時(避難時)に持ち出すものは、災害の発生に備えて、普段からリュックサックなどの非常用持出袋に準備しておきましょう。持ち出し品は最小限とし、両手は使えるようにしておきましょう。

非常用持ち出し品(例) ※準備したものにチェックを付けましょう。

- 飲料水
- 食料(アルファ化米・チョコレート・缶詰など)
- 眼鏡・コンタクトレンズ
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 靴・スリッパ
- 軍手・使い捨て手袋
- 衣類
- 生理用品
- 紙オムツ(乳幼児用・成人用)
- タオル
- ブランケット・寝袋
- 携帯トイレ
- 医薬品・常備薬・ばんそうこう・包帯・常用薬(いつも飲んでいる薬は必ず入れよう!)
- 雨具(レインコート・折りたたみ傘)
- 貴重品(現金・通帳・保険証など)
- 筆記用具・ノート
- 乾電池・携帯充電器
- ナイフ・缶切り
- 洗面用具(歯ブラシなど)
- ティッシュペーパー・トイレトイペーパー・ウェットティッシュ
- ポリ袋
- ヘルメット・防災ずきん
- 3日分の食料・飲料水を備蓄しましょう!
- 粉ミルク・液体ミルク・離乳食・母乳びん
- 手指消毒液・除菌シート
- マスク・体温計

使いながら備える「ローリングストック」: 災害用に特別なものを用意するのではなく、日頃から食べ慣れているもの、使い慣れているものを多めに備蓄し、消費したものを補充することを「ローリングストック」といいます。

ローリングストック: 多めに備蓄 → ローリングストック → 古いものから消費